【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年4月2日(2010.4.2)

【公開番号】特開2009-153(P2009-153A)
【公開日】平成21年1月8日(2009.1.8)
【年通号数】公開・登録公報2009-001
【出願番号】特願2007-161224(P2007-161224)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　6/03　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　6/03　３６０Ｐ
Ａ６１Ｂ　6/03　３６０Ｊ

【手続補正書】
【提出日】平成22年2月16日(2010.2.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項６】
撮影時期又はモダリティが異なる第１のスライス画像群と第２のスライス画像群とを取得する工程と、
前記第１のスライス画像群から第１の病変領域を抽出するとともに、前記第２のスライス画像群から前記第１の病変領域に対応する第２の病変領域を抽出する工程と、
前記抽出した第１の病変領域に基づいて前記第１のスライス画像群の第１の基準スライス画像を決定するとともに、前記抽出した第２の病変領域に基づいて前記第２のスライス画像群の第２の基準スライス画像を決定する工程と、
前記第１のスライス画像群及び第２のスライス画像群からそれぞれ比較読影用のスライス画像を選択する工程であって、前記決定した第１の基準スライス画像及び第２の基準スライス画像から等距離のスライス画像をそれぞれ選択する工程と、
前記選択したスライス画像を比較読影可能に表示手段に表示させる工程と、
を含むことを特徴とする画像診断支援方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項７】
撮影時期又はモダリティが異なる第１のスライス画像群と第２のスライス画像群とを取得する機能と、
前記第１のスライス画像群から第１の病変領域を抽出するとともに、前記第２のスライス画像群から前記第１の病変領域に対応する第２の病変領域を抽出する機能と、
前記抽出した第１の病変領域に基づいて前記第１のスライス画像群の第１の基準スライス画像を決定するとともに、前記抽出した第２の病変領域に基づいて前記第２のスライス画像群の第２の基準スライス画像を決定する機能と、
前記第１のスライス画像群及び第２のスライス画像群からそれぞれ比較読影用のスライス画像を選択する機能であって、前記決定した第１の基準スライス画像及び第２の基準スライス画像から等距離のスライス画像をそれぞれ選択する機能と、

前記選択したスライス画像を比較読影可能に表示手段に表示させる機能と、
をコンピュータに実現させることを特徴とする画像診断支援プログラム。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
請求項６に係る画像診断支援方法は、撮影時期又はモダリティが異なる第１のスライス画像群と第２のスライス画像群とを取得する工程と、前記第１のスライス画像群から第１の病変領域を抽出するとともに、前記第２のスライス画像群から前記第１の病変領域に対応する第２の病変領域を抽出する工程と、前記抽出した第１の病変領域に基づいて前記第１のスライス画像群の第１の基準スライス画像を決定するとともに、前記抽出した第２の病変領域に基づいて前記第２のスライス画像群の第２の基準スライス画像を決定する工程と、前記第１のスライス画像群及び第２のスライス画像群からそれぞれ比較読影用のスライス画像を選択する工程であって、前記決定した第１の基準スライス画像及び第２の基準スライス画像から等距離のスライス画像をそれぞれ選択する工程と、前記選択したスライス画像を比較読影可能に表示手段に表示させる工程と、を含むことを特徴としている。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
請求項７に係る画像診断支援プログラムは、撮影時期又はモダリティが異なる第１のスライス画像群と第２のスライス画像群とを取得する機能と、前記第１のスライス画像群から第１の病変領域を抽出するとともに、前記第２のスライス画像群から前記第１の病変領域に対応する第２の病変領域を抽出する機能と、前記抽出した第１の病変領域に基づいて前記第１のスライス画像群の第１の基準スライス画像を決定するとともに、前記抽出した第２の病変領域に基づいて前記第２のスライス画像群の第２の基準スライス画像を決定する機能と、前記第１のスライス画像群及び第２のスライス画像群からそれぞれ比較読影用のスライス画像を選択する機能であって、前記決定した第１の基準スライス画像及び第２の基準スライス画像から等距離のスライス画像をそれぞれ選択する機能と、前記選択したスライス画像を比較読影可能に表示手段に表示させる機能と、をコンピュータに実現させることを特徴としている。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４７】
更に、濃度値から、異常陰影の領域内に石灰化有無や空洞有無で分けることができる。石灰化は、注目領域内の濃度の最大値が一定のしきい値（例えば、目安CT値500）以上の場合は、石灰化が存在するものと判定する。空洞は、注目領域内の濃度の最小値が一定のしきい値（例えば、目安CT値－500）以下の場合に空洞が存在すると判定する。